

教員間のネットワーク構築による授業改善の推進

◆ 教育局の学力向上策の概要

- 各市町村の小学校教員、中学校の国語担当教員、数学担当教員の代表者を構成員とする「授業改革推進会議」を組織し、定期的に会議を開催して国語、算数・数学の授業改善に向けた方策等を協議
 - ・ 1回目の会議（5月）では、ICT端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた協議
 - ・ 2回目の会議（8月）では、全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の改善策について協議
 - ・ 3回目の会議（11月）では、各学校における実践成果の交流
 - ・ 4回目の会議（2月）では、次年度の方策等について協議

◆ 学力向上策に関連した特色ある取組

取組のポイントとその具体

■ 1 個人解決や集団解決でのICT活用場面の設定（稚内市立潮見が丘中学校）

- ・ 第2学年の数学の授業において、1人1台端末を活用した個人解決や集団解決の場面を位置付けた。
- ・ 個人解決の場面において、生徒は、解決方法が思い付かない場合には、端末を活用し、他者の考えを参考にするなどして自分のペースで学習を進めることができた。
- ・ 教師は、ICT端末に提出された個人解決の結果を基に、解決のポイントや新たな課題等を提示するなど、生徒一人一人の学習状況に応じた支援を行った。



【数学の授業における個人解決の場面】

■ 2 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業改善（稚内市立稚内南中学校）

- ・ 全国学力・学習状況調査の結果から、「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができかどうかをみる問題」において課題が見られたことから、第2学年の「文章の構成や論理の展開について考える」学習において、ICT端末を活用し、集めた情報を観点に沿って比較、分類、関係付ける学習活動を位置付けた。
- ・ 生徒は、端末を活用し、必要な情報に着目して表にまとめるとともに、筆者の論理の展開について、「効果」や「説得力」という観点で自分なりの考えを整理し、話し合うことができた。



【国語の授業において端末を活用し、必要な情報を整理する場面】

◆ 成果・課題

- ・ 小・中学校の教員間のネットワークを構築し、国語、算数・数学の授業改善に向けた方策等を共有したことにより、質の高い授業づくりに向けた意識が高まり、各地域において授業改善が進められてきた。
- ・ 「授業改革推進会議」に参加した教員が各地域において、国語、算数・数学のリーダーとして活躍できる環境づくりを支援するとともに、各教員が実践した成果等を管内に広く周知し、各学校の授業改善に確実につなげていく必要がある。